

# 旅館組合に受動喫煙防止策要望

中部医師会

鳥取県中部医師会（松田隆会長）は4日、倉吉市ホテル旅館組合（名越宗弘組合長）とホテルセントパレス倉吉（同社長）に、受動喫煙防止対策を求める要望書を提出した。

要望書には、たばこの煙による受動喫煙が死亡、疾病、障害を引き起こすことは医学的に明らかで、組合加盟のホテルや旅館の中に



山本総支配人に要望書を提出する松田会長（左）

十分な防止対策がされていない所もあり、喫煙場所を撤去することや対策を求めている。

同ホテルで松田会長が、山本啓貴総支配人に要望書を提出。松田会長は「施設の利用者のほとんどは非喫煙者。喫煙所を設ける場合は入り口から10m以上離してほしい。協力をお願いしたい」と求めた。

山本総支配人は「全館禁煙にし、ホテルの

イメージアップを図りたい」と応じた。同ホテルは宴会棟を15日から全館禁煙にし、喫煙スペースを駐車場の一部に設ける。

（石原美樹）